住民の非難に狼狽して發表した會社の虚構なる聲明書

從業員の悲痛にして正當な待遇改善運動と間斷なき住民の非難攻撃に周章狼狽した會社は萬策盡きて遂に虚構も甚しき聲明書を發表して會社内部の狀態に盲目なる住民諸君を僞瞞し從業員が無謀なる要求でもせるかの如く宣傳して、より多くの搾取を行はんとするに至つたのであります。吾等は茲にその僞りを發表して吾等の正當なる立場を明かにするものであります。

會社側の聲明書なるものを一瞥する時、八項に分ちて叙述してあります。其の一……四までは會社の施設の擴張改正等であつて、苟くも營利を目的とする會社として、餘りにも當然な爲すべき事をしたと云ふに止まつて居ります。其の五、即ち運賃制度の項を見るに及んで、如何に會社が我田引水論を恣にしてゐるかを明らかに知る事が出來るのであります。

改善した箇所をのみ羅列し、改惡した箇所は之を隱蔽し、巧に輿論の射撃を免かれのみならず、却つて乘客諸君に恩惠を施してゐるが如き態度を以て臨んでゐる事は甚だ言語同斷と云ふも敢て過言ではありますまい。大森蒲田間の運賃値上げ（十錢を十五錢に）に對して厘毫も論及してゐないのを見ても、京濱電鐵が如何に羊の衣を纏つた狼であるかをハツキリと知る事が出來るのであります。

第六項―運轉時間短縮にも會社の苦しい云ひ拔けをマザ〳〵と見る事が出來ます。即ち從來五十分運轉の高輪、神奈川間を四十五分運轉に短縮した。それも速力を增加して改正したのならば差支へも無いのですが事實は單に各驛の停車時間を短縮したのみなのであります。從つて乘客諸君には從來より一層の苦痛を與へるに至つたもので、吾人はかゝる劣惡なる政策に對して絶對反對を高唱するに吝でないのであります。又二輛連結、急行運轉等の好辭に名を籍り、停留場廢止等の無謀を企畫しつゝあるは、沿線住民の日常生活を脅威するも甚だしく吾人の頗る遺憾とする所であります。第七項……從業員の待遇なる項に至つては、其の虚構捏造も甚だしく、眞に「針小棒大」なる熟語を忠實に遵奉して居ります。聲明書に曰く「創業約三十年當テ待遇問題ヲ以テ彼我ノ間ニ紛議ヲ釀シタルコトナキハ同業者中稀ニ見ルノ異例」なるも尤もなのであります。それは決して「會社ヲ信賴シテ安住」してゐるのではなく、猛烈なる壓迫と威嚇の前に無力なる勞働者を束縛してゐた爲に、其の胸に漲る不平を爆發させる機會を與へられなかつたに止まつてゐたのであります。それは會社の暴戾に堪え兼ねて職を退ぞきし者の夥だしき數字を示してゐるのを見ても明らかであります。

尙、此の間の消息を詳に叙べるならば、入社にあたつて各人より、勞働組合に加入しない誓約書の提出を强要したり、國法で許されてゐる集會結社の自由を極端に抑壓し會社幹部の許可なくしては、社交的な集會すらなさしめなかつたのが好個の例證であります。

殊に從業員の待遇一人當り平均月所得八十圓餘に達する如く宣傳してゐるのは、實に虚構も甚だしく、以ての外の行爲と云はねばなりません。女子出改札員の最低月收は二十圓にも足らざるものあり、比較的高給者と稱せられる車掌運轉手の十餘年勤續の最古參者にして尙七十圓に滿たざるが如き現狀であります。

餘の長時間を課するが如きは「同業中稀ニ見ル異例」たるを失はないと思ひます。加之、宿直に用ゆる寢具の如きは所謂ゴロゴロ綿にして眞冬の深夜等の身に泌み入る寒氣は實に名狀し難い殘酷さであります又就寢するになくてはならない、枕をさへ充分に與へずして「萬遺漏無キヲ期シ」たと云へませうか？

又「如何ニ待遇シツヽアルカヲ知ルニ足リ」ませうか？ 此の一事を以つてしても、會社の撒布した聲明書なるものが、如何に吐撰極まるものであり、如何に虚構極まるものであるかを知悉するに充分であると思ひます。

更に吾人は斯く改惡したる實狀根據を曝露して、親愛なる沿線住民諸君に其の欺瞞政策の根據を見究はめて頂きたい思ひます。

昨年一月連帶運輸を開始する爲めに從來出改札の設備の無かつた驛に其の設備をしなければならなかつた關係上又始車より終車まで出改札の設備を爲しておかなければならない關係上、其の經費の捻出に苦心した結果ヤツトコ案出したのが出改札員の勤務時間延長となつて現はれ或は義務勤務、或は二日勤務の名に依つて不當搾取を恣にするに至つたのであります。又、聲明書には「待遇改善ニ關シテモ時運ニ順應シ逐次改善ヲ企畫シ寸時モ等閑ニ付セズ」など白々しい言辭を弄し、さも自發的に待遇改善を考究してゐるが如き聲明を爲し其の反面に於ては、却つて賃銀底下、勞働時間延長、勞働組合去勢「ヲ企畫シ寸時モ等閑ニ付セズ」勞働者いじめに浮身をやつしてゐる會社幹部の心遣ひは「甚だ御苦勞樣」であります。

「數年來世ヲ擧ゲテ不況ヲ喞チ各種企業極度ニ沈衰シ、本社亦其ノ打撃ヲ蒙ルコト甚ダシク」と云つて居りますが、虚僞も亦甚だしいのであります。社會の進歩につれて沿線各村は益々都會化して行きます。現に出村、雜色、蒲田、梅屋敷、川崎近邊を御覽なさい。二ケ前の原野は今は悉く立派なる市街と化し、夥しい人口增加を如實に物語つてゐるではありませんか？ それは一面乘客の增加を物語り、會社が世の不景氣に反比例して黄金の波に浸つてゐる證據なのであります。それをしも「本社亦其ノ打撃ヲ蒙ルコト甚ダシク」と云ひ得るならば、三千世界の各種會社は悉く破産してしまはなければならない道理であります。

又「從業員待遇改善ニ約五萬圓ノ巨費ヲ計上セリ」と嗷語して居りますが其の中に出改札掛の臨時增給を加へてあるのは餘りに不思議ではありませんか。

前述の樣に制度改正に依つて勤務時間延長の代償として行つた臨時增給が何んで待遇改善と云へませう？ 寧ろ甚だしい待遇改惡と云はねばなりません。

それにしても五萬圓とは恐ろしく吹たいものです。退職手當の改正や賞與支給率の些々たる改正や家族乘車券の支給等に、其の樣に巨額な經費を要するものでせうか？ そんな誤間化し宣傳をする事に依つて彼等の嘘の皮が片ツ端から痛快にもバレて行くのです。

茲に尙聞き捨てならない重大事はかゝる嘘僞の宣傳を爲す所以を彼等は辯明して「近來勤モスルバ名ヲ勞資問題ノ好評ニ借リ公器ヲ擁シテ民衆ノ福利ヲ脅シ」と書いて居ります。

恰も吾人が新聞記者を買收し、徒に新聞を利用して社會民衆